

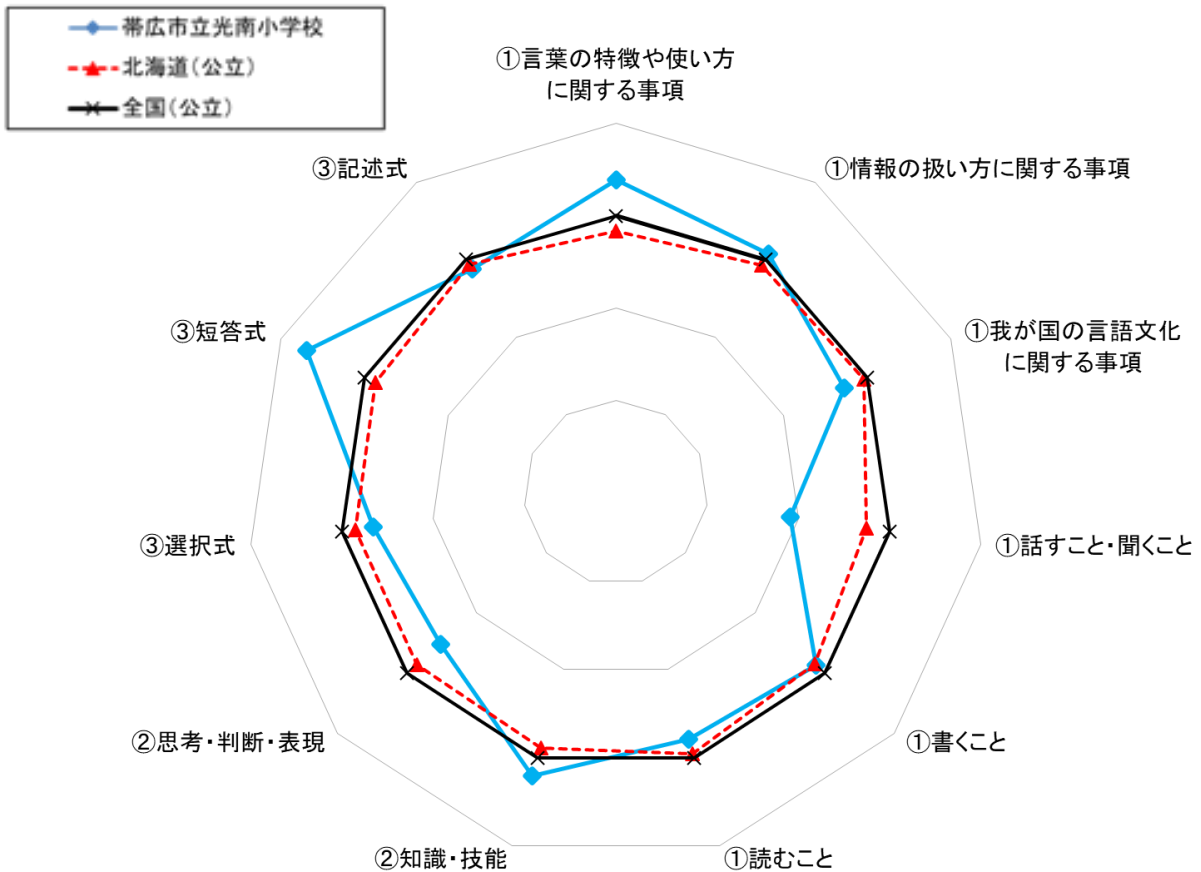
令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

第6学年を対象に行われた全国学力・学習状況調査の本校の結果等について、その概略をお知らせします。本校では、本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

◆学力の概観

(1) 国語

- 全国平均との差が昨年度から広がり、全国平均を下回った。
- 昨年同様、無解答率が全国平均より低い設問が多かった。
- 短答式の問題については、全国平均よりも高かった。
- 資料を基に、自分の意見を書く、理由を書く問題も全国平均とほぼ同数だった。。

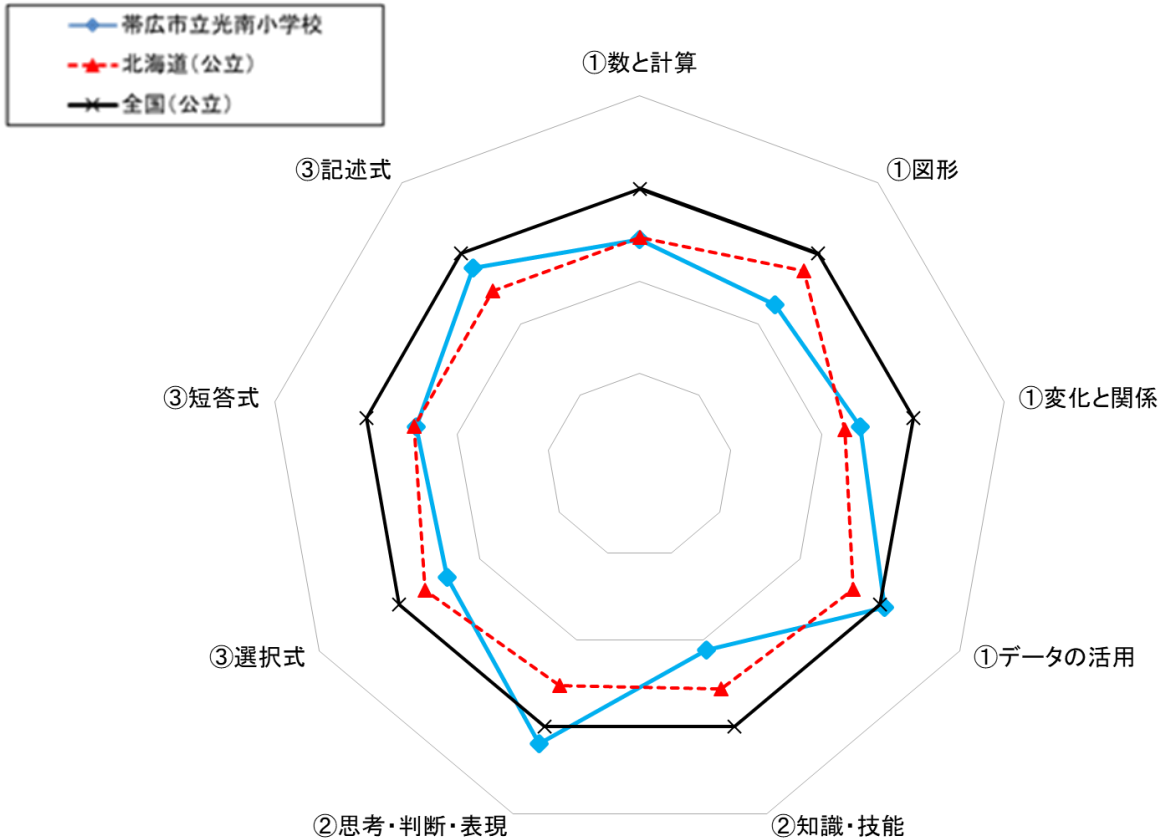


◎今後の取組

- ・ 昨年度に比べ全国平均との差が広がったが、その差はわずかであるので、引き続き基礎・基本の徹底とともに、自分の考えを「書く」ことの活動を国語以外の教科にも意識的に取り入れていきます。
- ・ 同音異義語の漢字については、定着が十分ではないので、ドリル学習やスマイルネクストなどのICTを活用して繰り返し取り組んでいきます。

(2) 算数

- グラフの読み取りなど、データの活用力は全国平均よりも高い。
- 国語同様、無回答率は低く、記述式問題にも取り組んでいる。
- △ $540 \div 0.6$ の正答率が全国平均から -26.7ポイントと低い。
- △ 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く問題の正答率が低い。
- △ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。



◎今後の取組

- ・わり算の計算の定着が不十分であるとともに、除数が $1/10$ になった時の商の大きさの関係に課題があるので、1以上で割ると商は小さく、1以下で割ると商は大きくなるなどの、わり算の性質を今一度確認していきます。
- ・平面の図形を展開したり、立体的に考えたりする「イメージする力」を育てていきます。

○全体として

- ・国語については、昨年度以前より取り組んできた「書く」という活動を継続して指導してきた成果が表れてきています。
- ・無回答が非常に少なく、記述式の問題でも何かしら書いていることから、「あきらめない」、「最後まで取り組む」という、学習に向かう姿勢が一人一人に身に付いてきていることがうかがえます。
- ・友達の意見や考えを受けて自分の考えを書く、という問題の正答率が上がってきているのは、ロイロノートなどの活用によって授業の中で交流する機会が増えたことが要因と考えられます。

児童質問紙の結果から

6年生が行った全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果をお知らせします。児童質問紙では、児童の学習の様子や生活の習慣などの様子について、光南小学校の様子と全国を比べて記載しています。

(当てはまる、どちらかと言えば当てはまるの合算)

	質問項目	光南小学校の全国平均との比較
自己 ・ 規範	・自分にはよいところがあると思う	上回る
	・将来の夢や目標をもっている。	上回る
	・人の役に立つ人間になりたいと思う	上回る
	・人が困っているときは、進んで助けている。	下回る
	・いじめはどんな理由でもいけない	下回る
生活 習 慣	・授業以外に、普段1日あたり1時間以上勉強する。	大きく下回る
	・休日1日あたり1時間以上勉強する。	大きく下回る
	・朝食を毎日食べている	上回る
学 習 へ の 意 欲	・学校に行くのは楽しい。	下回る
	・算数の勉強が好き。	下回る
	・算数の授業の内容はよくわかる。	下回る
	・国語の勉強が好き。	大きく上回る
	・国語の授業内容はよくわかる。	下回る

◎児童質問紙を通して

光南小学校の児童の傾向として、自己肯定感が高い傾向があります。自己肯定感が高い児童は、学力も高い傾向が見られます。今後も、自己肯定感が高まるよう褒める、認める、指導を継続していきます。

一方、「いじめはどんな理由があってもいけない」などの規範意識、家庭学習の時間などの生活習慣・学習への意欲が低い傾向にあります。

昨年度もお伝えさせていただきましたが、家庭学習の目安としては1, 2年生20~30分、3, 4年生30~40分、5, 6年生50~60分程度となっています。それに近づくことで、学習面での伸びが期待できますので、中学校を見据えてご家庭での声掛けをお願いいたします。

また、昨年度に続き、ゲームやSNS・動画視聴をしている時間に関する質問がなくなっていますが、子ども達の話や聞くとそういった時間はかなり長い傾向にあることが予想されます。こちらも中学校へ向け、生活習慣の改善が必要です。

国語に関しては、「勉強が好き」と答えた割合は全国よりも高い結果となっています。今後もこの傾向が他の教科でも見られるよう全教職員一丸となって授業改善を図っていきます。